

梅雨時期の大雨に対する農作物等の被害防止対策について

気象災害対策 R 4 - 2
令和 4 年 6 月 22 日
農林総合研究センター

I 気象の概況

石川県では、6月14日に梅雨入りし、今後、梅雨前線の影響で26日にかけて雷を伴った激しい雨が降るおそれがあります。能登地方では、19日～20日にかけての強い地震の影響により、地盤が軟弱化しており、少しの降雨でも、ほ場への浸水、冠水や土砂の流入等が生じ、農作物等への被害が発生するなど、農作物等への影響が懸念されています。

今後の気象情報に十分留意し、被害防止対策に万全を期してください。

II 被害防止対策

1 共通事項

- (1) 事故防止の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や風がおさまってから行う。
- (2) 浸水や冠水等を受けたほ場では、植物体への影響をできるだけ小さくするために、速やかな排水に努める。
- (3) 浸水や冠水等により、植物体が影響を受けた場合には、今後、病虫害の多発が懸念されることから、適切な防除に努める。
なお、農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、周辺への飛散低減対策を講ずるとともに、適時適切な散布を心がける。
- (4) 浸水や冠水等により農業機械等が被害を受けた場合には、今後の農作業に支障が生じないように、速やかに必要な点検及び整備を行う。
- (5) 土砂や濁水等の流入被害を受けた農業施設等では、気象情報を十分確認の上、再度の土砂流入等の事故に十分注意し、土砂の除去等を行う。
- (6) 農道等の路肩が軟弱になっている恐れがあるので、農業機械の走行に当たっては速度を落とし、路肩に寄りすぎないように注意する。また、ほ場への出入口が軟弱となっている場合には、補強して機械が安全に出入りできるようにする。

2 水 稲

- (1) 浸水や冠水したほ場では、できるだけ早くほ場内の排水に努める。
- (2) 河川からほ場や用排水路に土砂が流入した場合は、土砂を除去し、通水を確保する。
- (3) 浸水や冠水したほ場では、稲体が軟弱化し病害の発生が懸念されるので、排水後もほ場巡回を行い、病害の早期発見に努め防除を徹底する。

※ いもち病の発生状況

現在、いもち病の発生は確認されていないが、感染好適日が各地で出現していることから、ほ場巡回を行い、早期発見、早期防除に努める。

2 大 豆

- (1) ほ場内の滞水は、生育遅延や根腐れのほか茎疫病の発生を助長するので、速やかな排水に努める。
なお、茎疫病の発生が認められた場合は、ジメトモルフ・銅水和剤を早急に散布する。
- (2) 浸水や冠水したほ場では、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や溝の手直しを行い、ほ場内や排水溝の滞水を排出する。
- (3) 排水後、葉の黄化が見られるほ場では、窒素成分で1kg/10aの追肥を施用するとともに、天候が回復し土壌水分が下がり次第、開花前までに速やかに中耕培土を行なう。

3 野菜・花き

野菜・花きは長時間の滞水に弱く、根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良を生じやすい。また、収穫期のすいか、かぼちゃ、なす、ブロッコリー、花き類等は病害による品質低下などが発生しやすいので、速やかに以下の対策を実施する。

〈施設栽培〉

- (1) 外周の明渠をやや深く掘り、雨水の流入を防止する。
- (2) 灰色かび病やうどんこ病などの発生が懸念されるので、くん煙剤等を使用して早急に防除を実施する。

〈露地栽培〉

- (1) ほ場周囲及びほ場内に明渠を設置し、雨水が停滞しないよう排水を徹底する。
- (2) 浸水や冠水したほ場では、根腐病、疫病、軟腐病等の被害が発生しやすくなるので早急に防除を実施する。
- (3) 被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などにより草勢の回復に努める。
- (4) すいか、かぼちゃ等では、降雨後の強日照による日焼け果の発生が懸念されるので、果実への日除けを行う。

4 果 樹（なし、りんご、ぶどう、かき、もも、くり、いちじく 等）

（1）収穫期にあるハウスぶどう、果実肥大の最盛期を迎えるももやなし「幸水」等では、果実裂果の発生が懸念されるので以下の対策を実施する。

①ハウスぶどう：ハウス谷間の排水とハウス内の換気を徹底する。

②もも、なし「幸水」等：排水溝を整備し、ほ場内の排水を徹底する。なお、果実裂果が激しい場合は、裂果が終息するまで被害果の除去を控え裂果の拡大を防ぐ。

（2）落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底する。

5 畜 産

（1）畜舎への雨水の侵入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。

（2）飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。